INDEX

＜桜　ももこ＞
戦争責任を問われて　藤田嗣二として生まれ、Leonard Foujita として･･･　（2017．9）
外交政策につい　～ファンタジー小説から考える～　（2018．4）
取り残された杉の人工林(1)　（2019．1）
＜上前昌子＞
歴史から学び未来を構築しようとする国と･･･　（2020．1）
＜しんちゃんママ＞
宿題･テストのないデンマークの小学校　（2017．2）
＜鷹江精一＞
『福島』は今　（2017．12）
＜高島　仟＞
二つの映画の話　（2014．10）
二つの替え歌　（2015．2）
二人の音楽家の話　（2015．4）
草莽の戦い　燎原の火のように　（2015．7）
鴻池議員らへのFAX　（2015．8）
＜たかちゃん＞
東北に思う　（2015．3）
＜只野秀子＞
友の死に祈りを　（2015．7）
＜てぃんさぐ＞
沖縄のヒーロー「瀬長亀次郎」　（2018．3）
＜寺岡洋子　（Y.T)＞
エッセイさまざま　詩　街での寸景　（2019．11）
エッセイさまざま　詩　花粉症　（2020．3）
エッセイさまざま　詩　第二の人生　（2020．11）
エッセイさまざま　詩　嘱望　（2020．12）

＜T子＞
8700倍のくじに当たって　（2015．1）
＜T.S生＞
忖度する裁判官？　（2017．6）

戦争責任を問われて

藤田嗣二として生まれ、Leonard Foujita として生涯を終えた画家

桜 ももこ　（美賀多台）

ランスへはパリから北西に列車で約１時間。列車が駅に近づくにつれてゴシック様式のランス大聖堂の尖塔が見えて来た。この大聖堂のステンドグラスはとても美しいことで有名である。ここで藤田嗣二はランスに帰化後洗礼を受け、また彼の葬儀も執り行われた。

藤田はシャンパン王（ランスはシャンパンの製造が盛ん）から土地の提供を受け、この地に礼拝堂を造った。平和の聖母礼拝堂、ノートルダム・ド・ラ・ペと名付けられた礼拝堂はランスの町はずれの閑静な住宅街にあり、芝生が敷き詰められている庭の中央に静かに佇んでいた。中に入ると礼拝堂の四方の壁面いっぱいにフレスコ画が描かれていた。題材は、イエスの誕生から復活に至るまでの物語である。十字架に架けられたイエスキリストとその下で祈る群衆に交じって藤田自身の小さな姿が描かれていた。東洋的な雰囲気の画であった。どのような心境が彼をしてこの画を描かせたのか。考え込んでしまった。

昨夏、「藤田嗣二展」にて数点の戦争画を観た。「アッツ島玉砕」が圧巻であった。鉄砲や刀で勇ましく戦っている日本兵、その足元には苦悶の表情の兵士、死体となって打ち捨てられている兵士がいっぱい。凄まじい戦いの様子が描かれていた。この画が戦意高揚に役立った？当時、この画を観て戦いにシンクロした人がいたのだろうか？現在では、この画からは勇ましく戦っている兵士よりも、苦しんでいる兵士や死んでしまっている兵士の痛み、哀しみ、無念さを強く感じる。

戦後、これらの戦争画を描いたことで彼の戦争責任を問う声が画壇の中で大きくなった。全ての画家が戦争画を描かざるをえなく、結果として戦争に協力したにもかかわらず、彼ひとりがスケープゴートにされた。藤田は日本人として祖国を思って迫真の画を描いたと言っている。この気持ちを理解されず、自分ひとりに戦争責任を被せられたことに失望し、日本を棄ててフランスに帰化し、キリスト教に改宗した。ランス礼拝堂完成後２年たらずであの世に旅立った。墓には Leonard Foujita と洗礼名が刻まれた。さきの戦争の戦争責任について考えるなかで、藤田嗣二を思いだして。（2017 年９月）

外交政策について　～ファンタジー小説から考える～

桜　ももこ　　（美賀多台）

日本の政治が森友文書の改竄問題や急展開の米朝首脳会談の可能性などのニュースに揺れている時、私は読書に夢中になっていた。この本は壮大なファンタジー小説であるばかりでなく、書評家の文を借りれば“権謀術数が渦巻く超スリリングな外交エンタテイメント”である。趣旨一貫せず、誰のための外交なのか、何を目指しているのか見えてこないような外交政策の国に生きている著者だからこそ書けたのではないかと思ってしまう。

時代は大昔、多分紀元前。舞台は隣接する3つの国。それぞれの国は深刻な国内問題を抱えている上に、隣国と一発触発の危機にある。この物語は、一の谷国の図書館の長であり卓越した知恵、知識や行動力から「図書館の魔女」と呼ばれている言葉の出ない 10 代の少女が外交力で周辺2国を含めた3国間の和平を成立させ、国の安定と自国の経済のみならず、それぞれの国に経済的恩恵をもたらすに至った過程を描いたものである。

隣国のにざま国は宦官官僚が政治の実権を握り、高齢と病弱を理由に王に退位を迫っている。宦官が名実共に実権を持てば一の谷との戦いは避けられない。図書館の魔女は動く。不仲だった王と友好関係を築くべく、身の危険を顧みず、宦官に押さえられている王の薬とその後の安定供給の約束書を持って見舞う。このことがあって王は政治に意欲を持ち善政を行い、宦官は力を失って逃亡する。もう一つの隣国アルデシュは、長年の灌漑による塩害で農作物の不作が続いている。図書館の魔女は一の谷の叡智を集めて灌漑によらない農業を模索し、成功した方法と設備を無償提供した。言うまでもなくアルデシュ国の喜びは大きかった。その後、一の谷とにざま、一の谷とアルデシュの2国間の友好関係が3国間の平和条約の締結へと発展した。

勿論、これはファンタジー。現実の外交はこのような簡単なものではない。しかし、図書館の魔女の外交政策の中心となる【自国の利益のみでなく、相手国の利益をも含む外交】は世界平和に寄与するのではないか。楽観的すぎるかもしれないが、〇〇ファーストが声高に叫ばれているときにこそ強く思う。

高井大介著『図書館の魔女1巻～4巻、講談社文庫』より

（2018 年 4 月）

取り残された杉の人工林（1）

桜　ももこ　　（美賀多台）

宮津に行く途中、ちょっと探検と高速道路から降りてみた。立ち寄る程の街でもなく、そのまま目的地へ行こうと走っていると、「国道〇〇線、舞鶴へ」という標識があり、ほっとしてそれに乗った。しばらくすると山道となり杉林の中の一本道を走っていた。それは車が一台やっと通れる林道であった。「これが国道？」背筋が冷たくなった。きつねにでも騙されたのではないか、どこまでこの道は続くのか、出口の方へ行けるのか、心配は膨らんできた。後続車は来ない。こんな時は闇雲に突っ走るより、一服するに限るとエンジンを止めた。目の前に杉林が広がっていた。しかし、それは素人目にも植林したまま放棄されたものだと見て取れた。今私が居るのは山裾である。こんなところですら？　これが日本の山なのかと衝撃を受けた。

スギ（Cryptomeria Japonica）は学名の示す通り日本の固有種である。本来は深根性で根を深くまで伸ばす。この性質から土砂災害に強い森林づくりに好ましい。しかし、人工林のように挿木による栽培では地中深くに伸びる直根が出て来ないため台風や大雨などによって簡単に倒れる（参考書）。しかも人工林は過密に植えられた後、十分な間伐をせずに放置されたものが多いという。目の前に見ている杉林はまさにこの状態であった。全く間伐されていない、また、下枝も上枝も切り払われていない。このような林では樹冠で光が遮られ、森林の地表面にほとんどの光合成植物が生存できなくなる。このため治山治水機能（森林の水源涵養機能、水害防止機能）が衰え、遠目には緑に覆われているものの実態は生物多様性に乏しい「緑の砂漠」になってしまっている（知人の言）。

以前何かの本で読んだことを思い出す。ある漁師の物語である。雨が降ると直ぐに濁った水が海に流れ込む。海水は濁り漁はできない。彼は沖に出て山を見た。禿山であった。考えるところがあり漁師は植林に励み、そのうちに雨が降っても濁った水で海が汚れることは無くなった。（2019 年１月）

歴史から学び未来を構築しようとする国と
歴史を修正し都合よく未来を変えようとする国
（韓国と日本の関係悪化について想うこと）

上前昌子　　（垂水区）

私は2011年福島の原発が爆発した後、住んでいた郡山から子ども二人と一緒に台湾に母子避難をした母親です。5年半の月日を台湾で暮らしました。

台湾からは東アジアがよく見えます。何よりも、日本の政治のおかしさ、日本社会のおかしさがより鮮明にみえてくるのです。

台湾に住んでいて気付いたのは圧倒的に日本の若者が過去の歴史について知らない、関心がないという事です。それは若者の問題ではなくその世代を育てた世代に問題があるということに行き着きます。

韓国との徴用工の問題、慰安婦の件、そもそも植民地支配とは？何だったのか

あまりにも知られていない。この国は過去にどのような加害を他国に与えたのかを知らない上に最近ではその加害の歴史を修正したい人間たちが権力を持ち大手を振ってメディアでも発言し教育の中でも若い世代に語るようになっている事に恐怖を感じます。

そして最近の韓国との関係悪化についてそれなりに社会運動に関わっている人でさえも「韓国側も妥協して歩み寄らないと解決できない」などという論調または「いつまでも過去をほじくり返しても意味がない」「いつまで謝罪しないといけないのだ反省はしただろう」という発言には愕然とさせられます。

【韓日関係の障害物は過去の歴史それ自体ではなく、歴史問題に対する日本政府の認識の如何にあるからです。】

これはいつだったかの演説でムンジェイン大統領が話した言葉です。

以前から加害の歴史をどれだけ日本は教育や社会の中或いは家庭の中で語ってきただろうか？平和教育と言いながら中身は空襲で怖かった、空腹で辛かったなど被害の歴史が主であったのではないだろうかと思っていました。

加害について蓋をし続ける日本政府、蓋をあけようと努力しない民衆の多く。

台湾では転型正義というものがよく叫ばれます。権威主義的統治から民主主義に移行した社会が、過去に行われた人権侵害に対して責任者の処罰や被害者の名誉回復・補償をしたり、旧時代

から続く不公正や、弊害を抱えた制度を正して、公平と正義を実現することを指すものです。また韓国の植民地資料館には外的要因だけでなく内的要因を明らかにし 内から反省し省察することが大事だという記述が展示されています。

日本の侵略植民地支配が根本原因ですが、それに朝鮮人がどのように加担したのかは、内なる加害的な事で韓国でも長い期間タブー視されていた事です。

日本がしっかり加害の歴史を修正改ざんすることなく学ぶ事抜きに、未来の平和はないと思います。いつまでも日本政府の蓋をしておきたい人間たちに迎合している場合ではないでしょう。

今、日本という国は思考停止した多くの人を乗せたブレーキの壊れた暴走列車状態です。スピードを加速させながら右へ右へと曲がり暴走しています。その行き着く先に連れて行かれないために何をしなければならないのかが早急に問われていると感じています。（2020 年１月）

宿題・テストのないデンマークの小学校

しんちゃんママ　（実家　竹の台 ）

この夏に神戸の実家に帰り、自治会が運営してくれている学童保育に息子が大変お世話になった。

その時わが子が「デンマークには宿題がない」と言ったら子ども達は驚愕！実際向こうで「夏休みの宿題はないのですか」と先生に聞いた日本人友人がいたのだが、返事は「どうして？休みの間には学校でできない経験をいっぱいしてもらいたいから、宿題なんていらないよ」だった。息子は小2だが、休み以外でも宿題を持って帰ってきたのはこれまでたったの2回程。思えば去年日本人補習校に通わせた時、日本式のテストに慣れていない彼は答え方が分からなかったのだった。

デンマークの小学校にはミニテストのように学習したものを軽く確認するようなテストはあるが、全校一斉にするようなものはない。文章を読んで作者が意図したものは何かを三択で選ぶといった問題も考えられない。（デンマーク人であれば「文章をどう解釈するかは読者の自由だろう」と一蹴してしまうだろう）。わが子は「3文字以内で答えなさい」といった問題にも思いっきり字数オーバーの解答をしていた。テスト結果はもちろん散々であった。

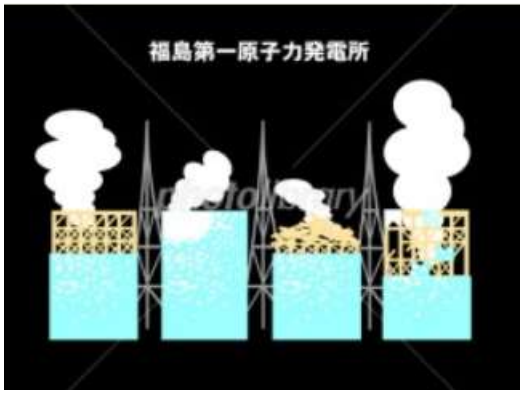
こんな宿題もテストもないデンマークの学校だが、向こうの大学で教えていてそのレベルの高さに驚かされる。基礎知識では日本の（有名）大学生に劣る子も少なくないが、彼らには自ら考え

答えを出す力が備わっている。授業中に鋭い質問が飛び交い、グループでディスカッションさせても意見が尽きることはない。そしてとても重要なのが、チームで協働する力だ。これからのグローバル社会を生き抜く上では、単なる競争力だけではなく、お互いの長所を活かし結果を生み出す能力が必要となってくるだろう。

最近デンマークの教育に感銘を受けて作られた日本の私立小学校の話を耳にした。1 年間の学費80万円也。わが子にはどこまでも無料の向こうの学校に通ってもらうとするか。
（2017 年 2 月）

『福島』は今

鷹江精一　　（美賀多台）



10 月に福島県猪苗代の集まりに行きました。そこで、聴いてきたことを書きます！
みなさん、『福島』を想って下さい。

☆ 大熊町 町議
「放射能線量は、地形によって大きく差が有るので、帰還可能と言われてた町・村でも不安が大きい。」
「震災前から、原発労働者の健康問題は多くあった。特に、作業服等の洗濯場の作業員は放射能だらけ。」
「除染汚染土中間貯蔵施設の土地収用は約30％！予定地地主（年配者が多い）1人に役人 5～6 人で囲んで、買収交渉。」
「避難解除された飯館村の帰還者数には、原発作業員も入っている。」
「福島県いわき市での（尿検査数値）は、震災時より悪化している、放射能の影響が有るのでは？」

☆ 元原発技術者
「原発作業員がいつの間にか居なくなる、被曝線量が多くなると辞めさせられる。多くの作業員は、闇金融利用者や普通の生活が出来なくなり、原発作業に来ている。」

☆ その他「六才の元気だった犬が、心筋梗塞で2匹死んだ。」
「震災後、肺がん・白血病で、多くの人が急に亡くなった。」
「原発近くの町では震災前から、白血病・白内障・メニエル病が多かった。」

いろいろ書きましたが、原発事故後かなりの年月が経ったけど、不安や住民間の考え方の問題など、多岐にわたり困った事が起こってます！

福島県外に避難移住（母子移住）された方の多くが、親や家族との関係で、福島に戻るかもしれない！苦労して、移住したのに子供の将来が心配と悩まれてます。（2017 年 12 月）

二つの映画の話

高島　仟　　（糀台）

今もオーストリア観光の目玉になっている「サウンド・オブ・ミュージック」の名場面は多くの人に感動を与えましたが、特にナチスの監視の中の逃亡劇は圧巻でした。しかし、歴史を背景にこの映画をみると、反ナチスの愛国者として描かれているトラップ大佐、実はイタリアファシストの党員、ナチスとのせめぎ合いで亡命を決意するのが真相です。後、ナチスが懐柔と脅迫でオーストリアを制圧し、国民投票で90％以上の支持でドイツとの合併を認めてしまいます。オーストリアの名誉の為に一言、ナチスの前にイタリアファシスト党がオーストリアに介入し傀儡政権を作ったとき、社民党、共産党が反対の為、武力蜂起しましたが、時すでに遅し、反対勢力は壊滅させられました。

戦後オーストリアは、この映画をうまく利用、ナチスの最大の犠牲者として国際世論を作り上げ、四か国占領体制を早期に終わらせることに成功しました。

もう一つの映画は、ハンフリーボガードとイングリットバーグマン主演の「カサブランカ」、ナチスを嫌いアメリカに亡命する夫婦を巡る映画ですが、この映画のモデルは第一次大戦後、戦争のないヨーロッパを夢見て「汎ヨーロッパ主義」を提唱、今もEUの父と呼ばれているチェコ貴族出身のクーデンフォーク夫妻です。EUの完成を見ることなく1977年に亡くなりました。

彼の母親は明治初期、オーストラリア帝国の初代駐日代理公使として日本に赴任していたクーデンホーフ伯爵に見初められ、妻としてヨーロッパに渡り、今もウィーンに眠る日本人妻、青山光子さんです。戦後、松本清張が伝記を出版し（「暗い血の旋舞」文春文庫）、NHKテレビでドキュメンタリードラマ「ミツコ　二つの世紀末」として放映され、案内役兼光子役を吉永小百合が演じました。

（2014 年 10 月）

二つの替え歌

高島　仟　　（糀台）

戦争の末期、「出てこい、ニミッツ、マッカーサー，出てくりゃ地獄に逆落とし」こんな歌が流行りました。この歌は、作詞・西条八十、作曲・古関裕而で、軍部の言いなりになって作ったのでしょうが、そのマッカーサーが占領軍最高司令官として来日、この二人は随分慌てたという話を聞いたことがある。

最初の歌の話は、当時流行った、高峰三枝子唄う「湖畔の宿」の替え歌。子供の私もこっそり唄った記憶がある。歌詞をいまだに覚えているのも不思議だ。

「蛸八の歌」（元歌「湖畔の宿」）

昨日召された蛸八が　弾丸（タマ）に当たって名誉の戦死

蛸の遺骨はいつ帰る？　骨がないから帰れない

蛸の母ちゃん　悲しかろ

当時「のらくろ」と「蛸の八ちゃん」は、子供にも人気のあった漫画だった。

二つ目の歌は、皇紀2600年（昭和15年）奉祝歌の替え歌、この歌詞はいまだに鮮明に覚えている。

金鵄（きんし）上がって15銭　栄えある光30銭

遥かに仰ぐ鵬翼は　不味くて高くて25銭

ああ一億は泣いている

（金鵄、光、鵬翼はいずれも当時のタバコの銘柄）

元歌（皇紀2600年奉祝歌）

金鵄輝く日本の　栄えある光身に受けて

今こそ祝へこの朝（あした）　紀元は2600年

ああ一億の胸は鳴る

この歌の作曲は、盟邦ドイツの音楽家に依頼、戦後ウィーンで聞いた話だが、本人曰く「あんなつまらない作曲に法外の作曲料を貰った」と言ったとか、言わなかったとか。

戦争末期に近ずくと、子供にもだんだん戦局が不利だとわかってくる。まして大人が分からない筈がない。

狂歌2首

日本の軍隊と夜店のたたき

勝った（買った）買ったと　負けていく

世の中は星（陸軍）に錨（海軍）に闇に顔

馬鹿者のみが行列に立つ

星と錨だけだはなく、私の友達に親父が特高（思想警察）だったのがいて、あの時代、食糧には全く困っていなかった。（2015 年 2 月）

二人の音楽家の話

高島　仟　　（糀台）

フルトベングラーとカラヤン、ドイツとオーストリアの巨匠でカラヤンは日本でもよく知られている指揮者だ。小沢征爾はじめ、カラヤンの弟子を称する指揮者は多い。

一方、フルトベングラーとカラヤンとの確執は有名で、「私の目の黒いうちはベルリンフィルは絶対振らせない」と公言、事実その通りになった。

フルトベングラーは、ヒトラー政権下で文化副総裁を務めたことが災いし、戦後連合国国際法廷でナチス協力者の烙印を押され、音楽会から追放されることになるが、彼はユダヤ人迫害の波紋がユダヤ人音楽家にも及ぶ中、ナチ政権下にあって彼らの救出に奔走したと聞いている。戦後、彼が音楽会から追放されたと聞き、メニューヒン等ユダヤ人音楽家が彼の救援に立ち上がり、無罪を勝ち取った。彼はナチ政権下でも頑なにナチ入党を拒み、ゲシュタポに追われ、抗しきれずにスイスに亡命した。彼にナチ党の党籍はない。

一方、カラヤンは、1934年ウルム歌劇場から、アーヘン歌劇場に迎えられた26歳のとき、「ナチ党員にならなければならない」と言われ、「芸術を続ける上でやむをえなかった」と語り、後年、彼の妻にユダヤの血統があると非難された時、憤然と党を辞めたとも言っている。彼は、終生自分の口から真実を語らないまま逝ってしまったが、彼の入党はヒットラーが政権に就く前のザルツブルグ時代に遡る。ナチを信奉しての入党である。ナチ政権崩壊まで彼の党員番号が残っていたことはそのことを如実に物語っている。彼もナチ協力者として戦後一時音楽会から追放されるが、1947年、早々と音楽会に復帰し、ナチ党員時代を一切封印したまま、「芸術至上主義」を唱え、帝王への道をひた走ることになる。

私は、カラヤンの指揮者としての評価に口をはさむほどの見識も知識もないが、嘘を平気でつく芸術家は一切信用しない。（2015 年 4 月）

草莽の戦い　燎原の火のように

糀台　　高島　仟

少し古臭い表題だが、5月の沖縄の旅、そして、6月21日の9000人が結集した兵庫県大集会に参加し、こんな思いがふと湧いてきました。60年安保のデモでは、「声なき声の会」が立ち上がり、商店の閉店ストが始まり、フランスデモで電車、バスが立ち往生、それでも乗客から頑張れの声と拍手、今も瞼に浮かびます。

一万人近い久しぶりのパレードは歩道ではなく、車道を堂々と行進、運動の前進と運動の潮目の変化を感じさせる画期的な姿だと感動しました。

人類の最高規範を明文化した平和憲法は明文化こそありませんが、国民には憲法を蹂躙する者に対する「抵抗権」があります（12条、27条）。かつて明治の自由民権運動の中で植木枝盛起草の五日市憲法には「抵抗権」明記されていました。過酷な明治政府の弾圧の中、運動は潰えさりました。しかしその運動の萌芽は大正ロマンとして、労働運動、婦人運動の高揚、普選運動、部落解放運動、農民運動の広がりとして花咲きました。

燎原の火のように広がる草の根（草莽）の運動の広がりは、敵の中に味方を作り、仲違いしている運動に、手をつなぐ大切さを自覚させる原動力です。

自民党の国防族の重鎮だった箕輪登さんはイラクへの自衛隊派遣は「憲法違反」として裁判に訴え戦いましたが、残念ながら結論を見ることなく故人となられました。「私は80歳です。けれども間違いは間違い、レジスタンスの先頭に立ちます。」と執念を示しました。

私も80歳になりましたが負けそう。いやいや私も負けずにがんばります。（2015 年 7 月）

鴻池議員らへのFAX

糀台　　高島　仟

参院委員会が始まりました。安保法制反対の国会外の運動が見事に反映されていることが実感できました。

理事、委員45名に思いを込めたFAXを入れました。敵の敵は味方、一点共闘の広がりを期待しつつ。

（そのうち4名の議員に向けてのものです。）

鴻池祥肇議員（委員長、自民、兵庫）へ

神戸市西区櫨台3丁目10-6
高島　仟
〒651-2273　TEL・FAX. 078-991-3754

鴻池祥肇先生

貴殿が安保法制特別委員会の委員長就任と伺いました。私も神戸在住でJC時代の貴方の友人からよくブログが送られてきます。（吉岡正文という友人）

私も人口の1割にも満たない戦中派のひとりになりました。私の兄は関東軍チハ戦車隊の操縦、九死に一生を得て帰国しました。姉夫婦で職業軍人を含む3人が不帰の人となりました。

湾岸戦争時アメリカから「日本人も血を流せ」とはれ新日本のスタイルが決められ、その具体化として安保法制がつくられました。

安倍さんはアメリカの傀儡（なにがなんでも通したいのでしょうが主権は国民です。戦争になり死ぬのも国民です。安倍一族ではありません

充分な国会議院らしい審議を保障し、時と場合には貴方らしい決断に私は大きな期待をもっています

佐藤正久議員（自民、比例）へ

佐藤正久先生

神戸市西区桃台3丁目10-6
高島　仟
〒651-2273　TEL・FAX. 078-991-3754

私は人口の1割にも満たなくなった戦中派の一人です。貴殿は防大出の議員でありあえてFAX致す次第です。私は岩手盛岡出身で過去軍人の多い県のひとつです。職業軍人を含め4人の軍人が居ますが3人は戦死、私の兄は関東軍チハ車で守備隊の新米少尉でした。ソ連に一生き残って帰国しましたが、敗戦後のソ連侵攻の折、奉天奉天の上関東指令部が通化に撤退それも家族同伴（満鉄職員も）兄は生涯、悔恨に悩み死んで行きました。シビリアンコントロールは何の支えにもならないことも知っています。

今回の安保法制は清水義孝の「時代の流れ」から拡がった新ガイドライン、その具体化が安保法制です。プロのあなたには決して説法でいえませんが現役自衛隊員にとってもあまりにもズサンです。プロであるだけに貴殿に期待すること大です。中国の南支那海のレーダーの恐威を声高に言いますが青森県、のメバロドレーダー外、日本全土はレーダ基地、ミサイルの山です。戦後、軍拡競争が何をもたらすか今のこと体験しているのが私達です。プロの貴殿に期待するゆえんです

荒木清寛議員（公明、比例）へ

荒木清寛先生

神戸市西区桃台3丁目10-6
高島　仟
〒651-2273　TEL・FAX. 078-991-3754

私は人口の一割にも満たない戦中派の一人です。兄は関東軍チャムス守備隊九死に一生で帰国しました。一九三一年満州事変以降の日中戦で叔父、いとこが帰らぬ人になりました。貴党は平和と立党の精神にしがみつと聞き及んでいます。それが貴方に期待するゆえんです

ドイツはワイマール憲法を変えずに全権委任法を通しナチスの台頭を許しました。吉田さんの口を開けば平和と云い邦人救出、ホルムズ海峡の答弁のとり返しです。私の様に戦前を知るものは邦人救出自衛を口実に侵略戦争を広げて行ったのが戦前の日本の姿です

アメリカから日本の血を流せと云われ新日米ガイドラインをつくり先に先にそして自公政権が上程した安保法制ではないですか。よく対案を出せと云われますが実法案には賛成のみです

貴党に期待致します

井上哲士議員（共産、比例）へ

井上哲士様

神戸市西区櫨台3丁目10-6
高島　仟
〒651-2273　TEL・FAX.078-991-3754

私は数少なくなってきた戦中派のひとりです
残り命を陛下に捧げたいと思っております
兄は関東軍チャムス守備隊所属一等兵で
帰国輸送中に職業軍人を含む教文・ハルビン
達の人は3人が不帰の人となりました。
安倍さんは邪人政治中国の恐威をくり返し
ていますが、関東軍はソ連参戦の時、満蒙
守備の兵、開拓団にも知らせず参謀本部は
家族連れで通化まで後退、残された運
命は悲惨でした。兄は死ぬまで南樺の極み
と云っておりました。軍隊は国民を守りません
憲法に期待すること大です。一度共産の方
針とお伺いします。平和法制廃止、安倍内
閣の退陣の一変にしばり共産党が黒子と
なり野党共闘を築いて下さい。手ぶらで参
議院を身を捨てての意気込みで頑張って
下さい

東北に思う

たかちゃん　（美賀多台）

３．11後の陸前高田に行って、少しばかりのお手伝いをしてきましたが、街の復興の方向性は見え、工事も進んでますが、いまだに多くの人達が、仮設住宅に住んでいるという、厳しい状況です。

毎年、岩手県に行ってましたが、昨年より福島県に行くようになりました。

福島県は、原発事故による放射能汚染の心配が、ある地域とそうでない地域での復興の違いや被災された方々の格差が色々な所で出ています。マスコミでもなかなか報道されず、意識の高い個々人での厳しい闘いが続いています。

・ 中間貯蔵施設

除染作業で出た、汚染土などが街の中や近くの空き地に山積みされています。それが、貯蔵施設が出来ると街から無くなると期待する人！

貯蔵施設が自分の土地の近くに出来れば、もう故郷に帰れないと思う人！

・ 除染

まだまだ、進んでいない！除染が必要と思われる地域の半分も済んでいない。

個人の家や庭を順次、除染しているがすぐ前の道路は、いつになるかわからない。

ある家の除染作業では、自宅の駐車場に汚染土を埋めた。

貯蔵施設が出来ると、再度掘り出して移すと言われたが、本当に移してくれるか不安。

除染作業にあたっては、打合せがあり要望などを相談出来るが、作業当日、仕事などで立ち会えなければ、作業内容に不安が残る。

・ 保養（放射能の影響があると思われる地域から一時的に離れる事）

保養が必要と思う人と「福島は大丈夫」と思う人で考え方が違う。

「大丈夫」と思う人は、保養に行くことを旅行とか遊びだと思っている。

保養に行きたいと思っている人でも、経済的・時間的に行けない人が多くいる。保養情報の入り方でも差が出る。

以上のように、震災による被害については、まだまだ続いている。いろいろな所で、格差が多く出ていま以上のように、震災による被害については、まだまだ続いている。いろいろな所で、格差が多く出ています！

私達は、神戸で被災しましたが、忘れられてしまう事が悲しいと思います。まだまだ、東北には支援が必要です！

字数考えず書きました、まだ食べ物についても書けば、かなりの字数になります。とりあえず、読んでみて下さい。（2015 年 3 月）

友の死に祈りを

只野秀子　　（美賀多台）

私は深川の数矢小学校・明川高等小学校を卒業した昭和十九年、藤倉電線株式会社に入社いたしました。

家族は富岡町での十余年の生活を、疎開と言うことで離散いたす事になりました。戦争が激しさを増してきた十九年秋、父は深川東雲町の三菱製鋼所に勤めておりましたので、社宅に移り、兄は石川島造船所に勤め、洲崎の寮に入っておりました。母、姉、弟、妹は三重県に疎開いたしました。

当時、私の家の隣に「初音」という料亭がありましたが、戦時になり藤倉電線の女子寮に変わりましたので、私はこの寮に入る事になりました。東京出身者は、私の外に二名だったと思います。他の方は地方出身者で戦時中の事で軍事工場に集められた人たちでした。

山形・栃木・和歌山・福島県と南から北からと集まり、各地の方言も豊かに交じりあった寮生活でした。軍需工場の事ですから戦争が激しさを増してきた二十年には、度重なる空襲、工場で働く時間も長くなり、残業から夜勤への厳しい毎日を送るようになりました。朝は軍歌を歌いながら工場へ、一日中機械の前に立ち、夜も真から体を休める事の出来ない状態になっていた其のころでした。あの日も、日勤、夜勤と交代して寮には多分半数位の人がいたと思います。

その夜、寝入りばなを寮母さんの、けたたましい叫び声に目を覚まし、枕元においたオーバーコートを羽織って、階段をかけ降りた事だけを記憶しております。寮母さんと共に防空壕に入り、外の様子を全く見ることの出来ない状態で、強風が吹きまくり、人の叫び声が入り乱れている様は、私たちを恐怖と不安に震えあがらせました。

十日の早朝、壕の外の有様は何と言う事でしょうか、総てが焼けつくされ、焦土の上には痛ましい屍が累々、呆然といたしました。私の様に幸いにも一個所の壕の中で助かった人は、少なかった事を聞いて幸運であったと思いました。数矢小学校に引揚げましたが、そこは言葉では言い尽くせ

ない状態が繰り広げられておりました。うめき声、焼けただれた体、家族を捜す叫び声など、誠に悲惨な姿でした。

夜勤のため、あの日工場で働いていた、あの友、この友、若く幼い程に純粋に生きていた地方から出てきた人々です。

生き残れた私は、あれから五十年の年月を色々と乗り越えて生活してまいりましたが、三月十日の東京大空襲で尊い命を失った友を想い出すとき、生きている尊さに感謝いたして参りました。尊い犠牲者のあることを忘れずに、戦争に巻き込まれられない心を養い、平和を念願いたします。

（ 編集子伊東付記 ） 只野さんはクリスチャンです。私自身はまだ信仰には至らない者ですが、教会の雰囲気が好きで、糀台の西神教会の日曜礼拝に時々寄せていただき、牧野牧師のお話を聞き、皆さんと一緒に讃美歌を歌っております。礼拝の始まる前、隣の席の信仰厚い只野さんは、私に親しく声をかけて下さいます。今年の6月の半ばころ、何かで6・21集会をお知りになった様子で、思いもかけず「私は身体が弱いので、集会には出れませんが、9条の会の皆さんがんばって下さい。戦争は絶対にいけません。」と激励をいただき、お話を聞いているうちに、東京空襲に遭われたことも知りました。その後「平和の祈り 女性が語る東京大空襲」（平成7年刊行）という立派な冊子を読ませていただきました。そこに寄稿されている只野さんの文章を転載させていただくお許しを得て、本稿となったものです。只野さんがこの大空襲に遭われたのは15歳のときだったそうです。

以下は、只野さんがその後別の文集に書かれたものの中の短歌です。

夕暮るる　空に悲しき茜あかね雲　友失いし空襲の色
故郷ふるさとは　若き戦女にょの命綱　夜勤のつとめに絶たれしあわれ
今は亡き　若き乙女の俤おもかげを　偲しのびて開くこころのとびら

（2015 年 7 月）

「不屈」の精神で立ち向かった沖縄のヒーロー「瀬長亀次郎」

てぃんさぐ　　（樫野台）

1956 年 12 月に行われた那覇市長選に瀬長亀次郎さんは出馬、アメリカは上空からカメジロウを中傷するビラを撒くが、当選を果たす。当選後は米軍の妨害により、那覇市への補助金や融資、預金が凍結される。

市役所に長蛇の列ができ、「おばあちゃん、何しに来たの」と尋ねると目を輝かせて「アメリカが瀬長市政をいじめるから税金を納めにきた」と納税率は 97%にもなったそうです。 いじめればいじめるほど市民は瀬長市政を守れと団結する、沖縄の「島ぐるみ闘争」の始まり。

米軍基地の一部返還で基地依存経済から抜け出し商業都市に生まれ変わった北谷町（ちゃたんちょう）では税収が 80 倍・雇用は 100 倍に増えた、しかし、米軍基地の返還は進まない。

政府主導の基地振興策は、地域の借金を増やし失業率を高め、法人税収を減らすという振興策依存経済を作っていると前泊博盛さんは指摘されています。

小さな名護市の市長選挙になりふり構わず「権力」と「金」で大量の宣伝を行い、「仕事がない」「生活水準を向上させたい」「基地建設には反対だが」・・・と市民を苦しい選択へ導かせるアベ政権の構図なのか。なるほど「沖縄からは『日本』がよく見える」。

今日も辺野古ではイチャリバチョーデー（出会えばみな兄弟）と座り込む姿が・・・。
（2018 年 3 月）

街での寸景

Y.T　　（竹の台）

久し振り街に出る
繁華街に長蛇の列
ひんぱんに店じまい
新装開店を繰り返し
珍しい光景でもない

バーゲンか
商店街末尾に並びかけてやめた
手に取った物の端から引ったくられ

殺気立った空気に
出口を探すのが常だ

それにしてはあの熱気が無い
大部分が男性
くたびれかけたポーズで並ぶ
年配の女性だ
何の列　問えば
チンジャラジャラが開くの待ってんの
この人だけ笑顔と生気がほとばしる

辛い現実からの逃避
それとも目先の一瞬の夢を追ってか
道にぺったり座り込む
若者がいないのが救い
時間にもお金にも
勿体無いに無縁の人達
くねくねした列が拡大され
俄に眩しく映り始めた
（2019 年 11 月）

花粉症

Y.T　　（竹の台）

一月半ぶり公園へ
冬の陽射しにびっくり
視線を落とす
杉です　檜です
あちらこちらから
年輪を晒す切り株達の声

訪れる苦情に備え
管理者達が機転を効かせ
根元から一斉に伐ったのか
冬は風除け

夏は深い緑陰
年中深呼吸の場だった

街に出ればマスク顔
子供の頃
杉の木を目安に山に入り
かまどの下の焚きつけ葉
一人としてくしゃみ
鼻水むずむず感とは無縁
特に杉は大切にされた

今やスピードのみが突っ走り 経済効果が最優先
不足分は未開発の国から
せっせと大型船に

日増しに欲望の川は大河と化し
複合汚染の言葉も
専門別の学者たちによる犯人探し
切り口を晒す年輪達はきっと
真犯人を知っていることだろう
（2020 年 3 月）

第二の人生

竹の台　　寺岡洋子

朝早くから頭の芯に
家屋解体突き刺さる物音
刻降るごと悲鳴に
持ち主だった亡き友の顔がくしゃくしゃ
純和風に家が潰され
更地にされる儀式

近くにオール電化のショールーム
不動産、建設、電気……
大手メーカーがタイアップ

窓の少ないボックス型の家が建ち
傍らに背丈ほどある大型空調器
未だ住めるずしりとした窓の多い家の
拠り所が次々潰されてゆく

気候、風土、環境
古いものから学ぶことを放棄
見た目とコマーシャルの間を
人の心はゆらりゆらり漂っていく

どうか家にも第二の人生を！
未だ住めるかもしれません
角の自治会掲示板に貼り紙
いつも横目で通り過ぎるのに
寒風の中　目だけ
点となり立ち尽くす
（2020 年 11 月）

嘱望

竹の台　　寺岡洋子

孤独の谷間
ぱっくり口を開く
夢の中なのに足が疎み覗けない
中には現世に多くの思いを遺した
人達が蠢いていることだろう

若い時分の孤独は
枯れ木心を育む糧
旅へ誘い
山に魅せられ
文学の海原へ漕ぎ出してくれた
今弱音を吐けば
産まれる時も一人ではないかと人は言う
だが　産んでくれる母

取り上げてくれた人がいた筈だ

チャンスは禿頭と言われる
若い時分から音も立てず
頭上を素通りしていった
それでも何とか生き繋いできた
なのに希望のエンゼルは
影さえ落とさなくなった
日々の深い孤独を縫り合わせていけば
きっと希望の灯りに届くだろう
（2020 年 12 月）

8700倍のくじに当たって

竹の台　　T子

　ちょっと前の話しですが、2011年末、最高裁判所から分厚い封筒が届きました。「なんで裁判所から私に？呼び出されるようなこと何もしてない～」と不安な気持ちで封を切ると、思いもよらない「裁判員候補者名簿に記載されました」との連絡でした。

　とっさに、これはお断りしよう、人様の人生を決めることなんて私にはできないと、そう決めて書類に記入していくものの、断る理由を細かく記入したり、理由の証明が必要であったりと、かなりのエネルギーが必要で、ほとほと疲れてしまいました。折角の機会をぜひ経験すればいいとの家族の勧めもあり、名簿に記載されただけで終わるかもしれないし…とそのまま提出。
　ところがしばらくして、「2012年4月の横浜地裁での裁判に裁判員の候補に選ばれました」と連絡があり、決められた日に地裁に行くと30人が集められていました。裁判長と5人ずつ最終の面談をしたあと、裁判長が全員の前でパソコンをクリックすると、何と私の受付番号が…。このようにして、全国平均8700人にひとりという裁判員6名と補充裁判員 2 名が決められ、早速その日の午後から裁判に出ることになりました。

　20代前半の若い男性が、薬物欲しさの窃盗（再犯），傷害事件を起こした裁判でした。裁判、協議が続き、精神的にとても疲れた一週間でしたが、裁判長、裁判官は、慣れない裁判員によく配慮

して緊張をほぐして下さり、経験もたくさん話してくれたおかげで、何とか課題をこなすことができました。

協議のなかで、意外に思ったのは、薬物の使用よりも傷害を負わせたことの方が判決に影響することでした。また、裁判はいつでも誰でも傍聴することができることも知りました。裁判員の席から見ると、毎日傍聴に来ているマニア？の方もいました。（ふと、映画「それでも僕はやっていない」の監督が製作のために一年間傍聴に通ったということを思い出しました。）

そして、いよいよ判決の時、裁判長が長い判決文（懲役7年）を読み終えた後、若い被告に、「この先まだまだ人生はやり直せる」という内容のことをわかりやすい言葉で時間をかけて話されたことに、胸があつくなり目が潤んでしまいました。

世間を揺るがすような凶悪事件の裁判員であったらまた違ってくるかもしれませんが、不安な気持ちで臨んだ裁判員の経験は、結果的には多くのことを学べた貴重な体験であったと思っています。（2015 年１月）

忖度する裁判官？

竹の台　　T.S 生

最近、福井原発や米軍基地訴訟などについて、地裁で住民側にとって勝訴判決が出ても、すぐに高裁で国側に寄った逆転判決が出されています。これは控訴しても上級審の裁判官には、国側の意向を忖度して判決を書く人物が人事異動で送り込まれ、一方、住民側寄りの判決を書いた裁判官は「飛ばされて」います。

ところで「裁判員制度」。刑事裁判に民間の公平な意見を取り入れるという理由ですが、結局は裁判所の責任逃れの制度ではないかと私は思っています。私たちの世代では、社会科の教科書で、三権分立と言って、憲法第6章「司法」の項で、裁判所は国家権力者からの影響を受けないために独立機構と裁判官の身分保障が規定されていると理解していました。そのため、裁判官を全面的に信頼していました。しかし、今はどうなのか・・・。

このように最近の裁判所は、国家権力関係に関する訴訟では一方的に国側勝訴、複雑な事案は判断を転嫁するような状況になっていると思います。

このような裁判所の体質に陥ったのは、裁判所の組織が国家権力側に組み込まれるような仕組みが作られているからだと思います。5月6・13日合併号“週刊現代“が特集として「裁判官よ、あなたに人が裁けるか」のシリーズを組んでいるのは、こうした司法の独立が脅かされている危機的状況への警鐘だと思われます。

実は、私も30年前に仕事を通じて行政側に関わった時、こうした心配を感じていました。

地方自治体には、国の機関委任事務や地方自治体独自の事務に関しての訴訟がありますが、これらについて、法務省が関与することが出来るようになっています。そのため私たちがお世話になるのが法務局の「訟務検事」です。彼らは国側の「弁護士」として裁判所の裁判官が「判検交流」として管区法務局に出向しています。

彼らは大体30代の若手訟務検事です。一緒に仕事をしていても、私たち門外漢からすると確かに手際よく判断し、指示されるので、気持ちいいところもあります。しかし、本音部分で聞くのは、「一審で敗けても三審制だから」「どうしても難しければ和解がある」という前裁判官の「心強いお言葉」でした。国側の勝訴率は98％とのことですが、敗けそうになると和解に持ち込めば敗けたことにならないとのこと。こういう国側の弁護をした訟務検事が3年もすると裁判官となって、裁判所に戻っていくのです。

こうした若手訟務検事も裁判所にもどって、組織の中で上司の意向を忖度することを学び、体制側に組み込まれていき、さらに人事異動を通じて国家権力に都合のいい裁判官にコントロールされて行くのでしょう。

確かに、彼らに裁判所にいた時の仕事量を聞くと「常時200件から300件の手持ち案件があり、とにかく忙しい。考える暇がなく、処理を優先する思考にならざるを得ない」と言っていました。想像を超える労働条件の中、処理件数が評価点になるので必死とのこと。気の毒だなあと同情したのを思い出します。（特別職なので労働組合もありません）

また、訴訟の労力について、原告である住民側の訴訟費用や肉体的精神的な負担の大きさに比べ、行政側の費用はすべて税金、人材も時間もたっぷりあって仕事に取り組むことが出来ます。この状態で三審までの持久戦に持ち込まれたら住民側は兵糧攻めになってしまいます。この点の不平等さにも心を痛めました。

最後に、週刊現代は、ある裁判官がこうした裁判所の在り方に苦言を呈したため、処遇の面でも露骨に差別されていたことも伝えています。こうした裁判官の決意のすばらしさと同時にご家族の支えがあってこそとの思いがしました。こうした裁判官の存在は私たち庶民にとって、一筋の光のように思います。

週刊現代の今後の記事に期待したいところです。（2017．5．1記）